

令和6年 お茶づくり技術情報 (No.8)

2024年9月24日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象

1) 気象の経過

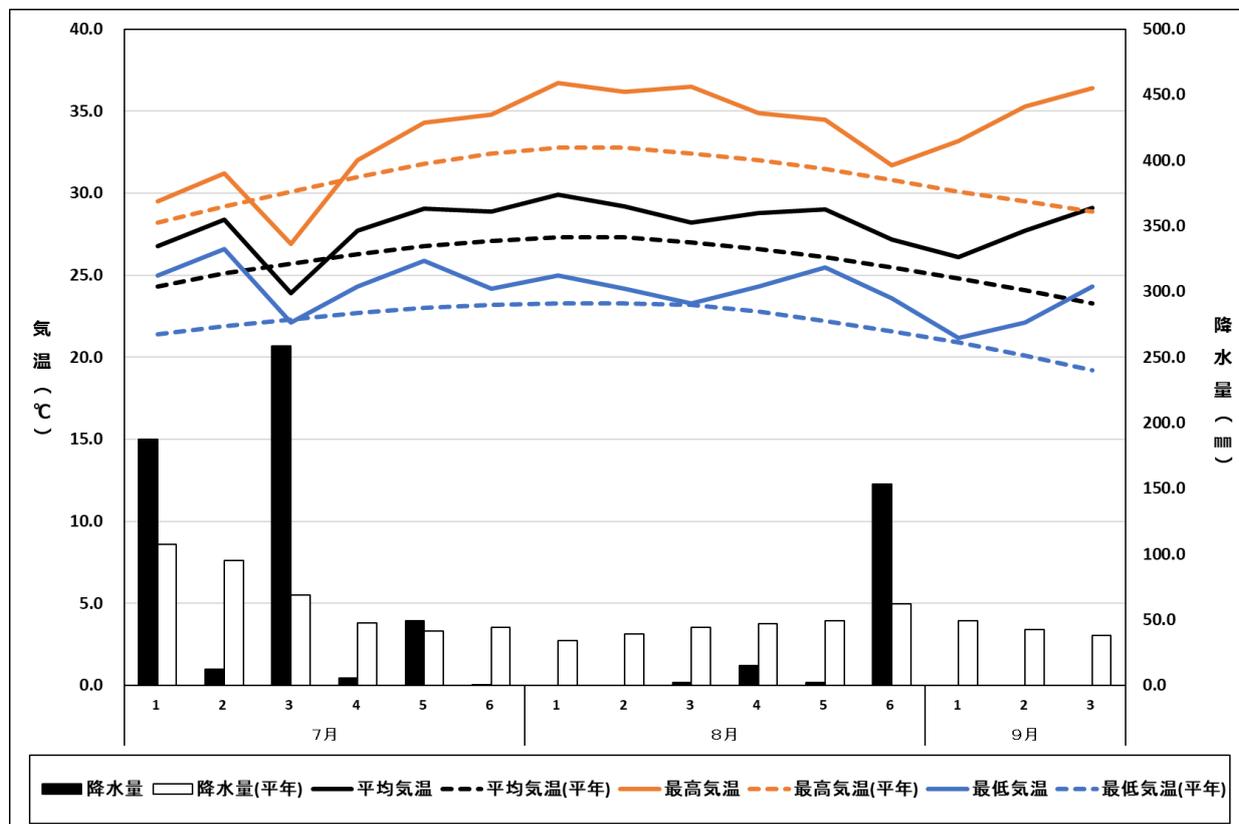
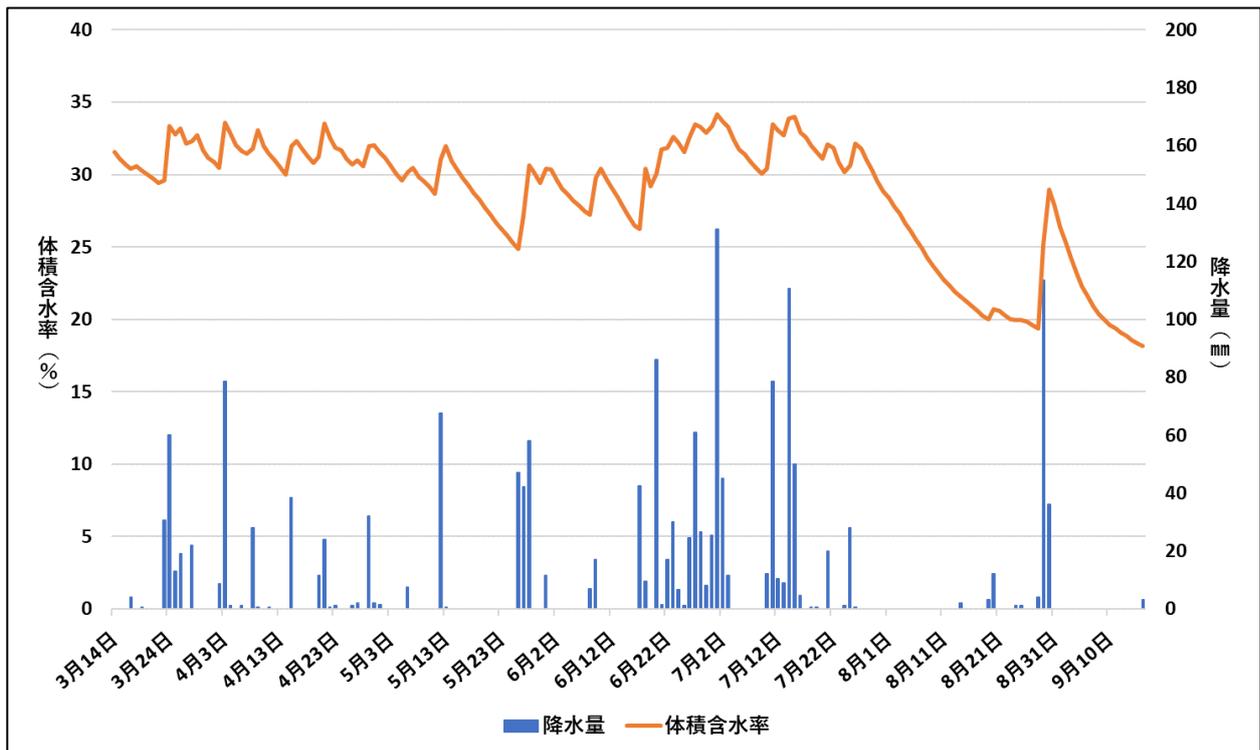


図1 2024年7月～9月前半における半旬別の気温および降水量

- (1) 7月～9月第3半旬の平均気温は、7月第3半旬を除いたすべての期間で平年よりも高く推移し、平年と比較して平均で2.2℃高かった。特に、9月第3半旬の平均気温は29.1℃で、平年と比較して5.8℃高かった。
- (2) 7月～9月第3半旬の降水量について、7月第1,3半旬および8月第6半旬に降雨があったものの、その他の期間においては平年以下の降水量となり、特に、7月第6半旬～8月第3半旬および9月第1～3半旬ではほとんど雨が降らなかった。

表1 7,8月降水量の前年および平年との比較

	7月 (対比)		8月 (対比)	
2024年	513 mm	127 %	173 mm	63 %
前年	473 mm	117 %	224 mm	81 %
平年	404 mm	100 %	275 mm	100 %



2) 土壌中水分の推移

図2 降水量および佐茶試内圃場の土壌中の体積含水率
 ※体積含水率：土壌体積あたりの水の体積を表す。

降水なし期間	日数	期間平均気温	体積含水率(期間最低値)
①5/14~25	12 日間	19.5℃	24.9%
②7/27~8/18	23 日間	29.0℃	20.3%
③8/31~9/15	16 日間	27.6℃	18.2%

- (1) ①の期間では干ばつによる被害はみられなかったが、②③の期間では体積含水率がさらに低下したことに加え、期間平均気温が大きく上昇したことにより、干ばつによる被害がみられた。

3) 今後の気象の見通し

■ 1か月予報（福岡管区气象台、2024年9月19日発表）

向こう1か月の天候の見通し
 九州北部地方（山口県含む）（09/21~10/20）

	平均気温（1か月）	降水量（1か月）	日照時間（1か月）
九州北部地方（山口県含む）	低10 並10 高80% 高い見込み	少20 並30 多50% 多い見込み	少50 並30 多20% 少ない見込み

- (1) 暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高く、期間の前半は、この時期としてはかなり高くなる見込み。
- (2) 低気圧や秋雨前線の影響を受けやすい時期があるため、向こう1か月の降水量は多く、日照時間は少なくなる見込み。

2. 今後の管理

1) 土壌・肥料

(1) 土壌 EC 値の動き

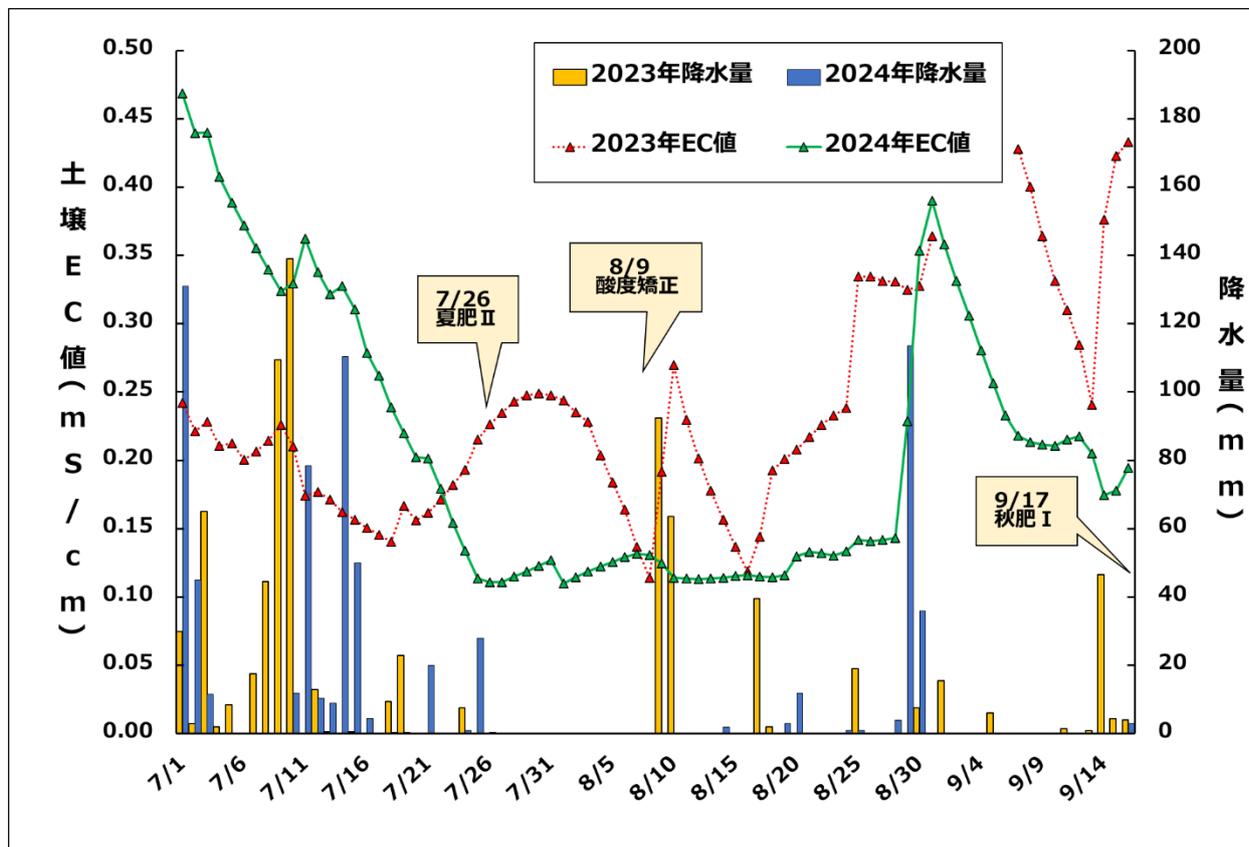


図3 茶試作況調査園における土壌 EC 値の推移

注1) 本年の土壌 EC 値は、雨落ち部の深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値に基づき推定した値を示す。

- 7月～9月上旬の土壌 EC 値について、7月上、中旬に多量の降雨が続いたことにより徐々に低下した後、8月はほとんど降雨がなかったため、施肥後も低い値で推移した。
- 8月29日に台風通過時の降雨により一度上昇したが、その後は降雨がなく低下が続いている。

(2) 秋肥の施用

- ・ 秋肥の目的は、樹勢の回復と次年度の一番茶へ向けた養分蓄積、枝条の充実を図るためである。
- ・ この時期の茶樹の養分蓄積の程度は翌年一番茶の生育に大きく影響し、一番茶新芽に含まれる秋肥窒素の割合は12%程度と重要である。

(3) 施用時期

- ・ 平坦部では9月中下旬ごろ、山間部では9月上旬ごろまでに終わるようにする。

2) 秋整枝

(1) 整枝の時期

- ・秋芽の生育が停止する時期に行く。

(平均気温：18~19℃以下が目安、例年 10 月上中旬ごろ)

- ・整枝の時期は、越冬芽の大きさが小さい場合に早く、大きい場合は遅らせる。
(芽が大きいと再萌芽のリスクが高まる)
- ・早生品種 (さえみどり等)、早場地帯、幼木園や更新園は、比較的低温の時期まで芽が生育するため、整枝を遅らせる。
- ・秋芽が繁茂した茶園では、一度に深い位置で整枝すると日焼けを起こす場合があるため、本整枝の 7~10 日前に仮整枝を行う。

(2) 整枝の位置

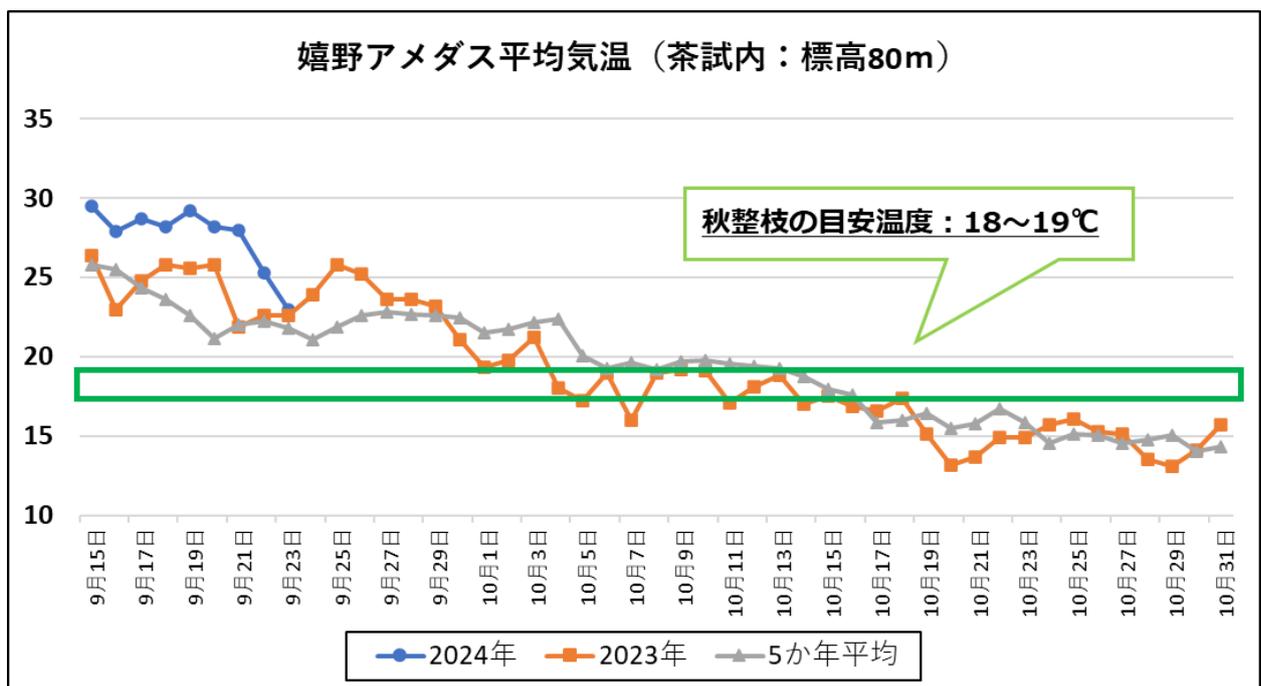
- ・生育が良好な茶園では前回整枝面の 2~3 節上で (次項図①)、生育が不良な茶園では軽くならす程度に整枝を行う (次項図②)。
- ・一番働く葉 (光合成能力の高い葉) が表面に出るように調節する。

※葉厚が厚く、色の濃い葉は光合成能力が高い。

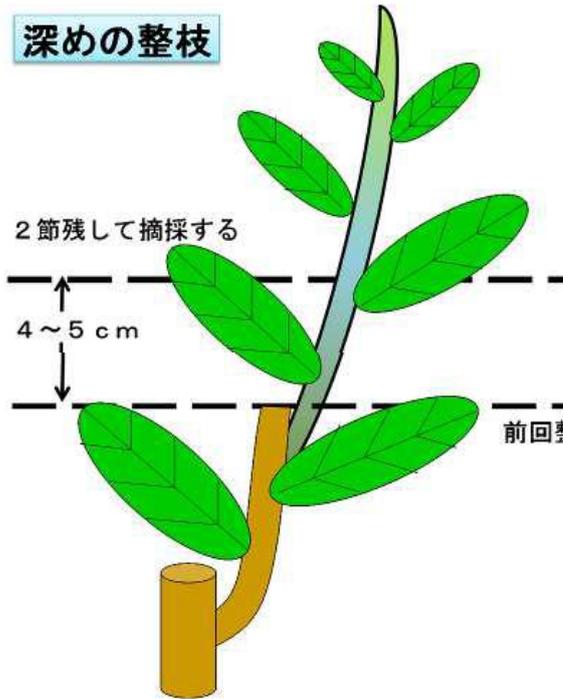
- ・整枝位置は、茶園の端で高さを決めると低くなりがちのため、なるべく園の中央付近で決定する。

(3) 干ばつ時の秋芽の整枝処理

- ・干ばつにより生育不良となった茶園では、少しでも多くの秋芽を伸長させるために、秋芽の生育が停止する時期まで秋整枝を控える。
- ・干ばつの影響がひどく、葉焼けや枝枯れにより葉層が確保できない場合は、樹体内養分や越冬葉量の不足から低温障害を受けやすくなるため、秋整枝をやめて春整枝を行うことも有効である。

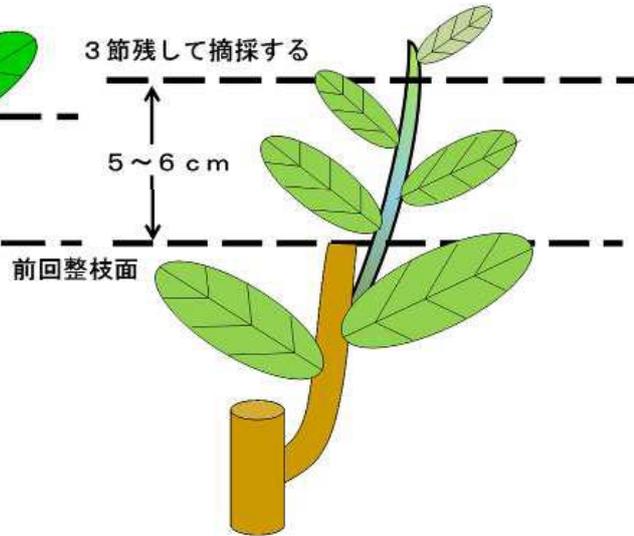


深めの整枝

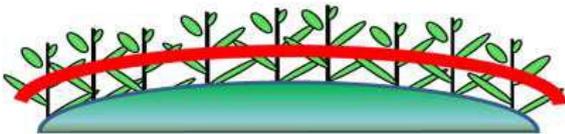


(秋整枝位置)
前回整枝面より2~3節程度上げた位置
(4~5 cm程度上げた位置)

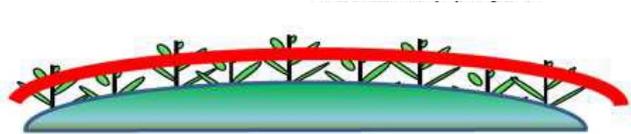
浅めの整枝



(秋整枝位置)
樹冠面を軽くならす程度とし、
頂芽を多く残す



① **生育良好園、幼木園**
・葉層が厚く、芽数をある程度
増やしても芽の生育が良い。



② **生育不良園、三番茶摘採園**
・葉層の確保を優先する。
・無理に深い整枝を行うと、芽伸びが不良
→収量・品質が低下